

第2学年 英語科学習指導案

平成31年1月31日(木) 第5校時

授業者：教諭

ALT：

場所： 視聴覚室

1 単元名 Chapter 4 Project 私の宝物 (TOTAL ENGLISH 2)

2 単元について

(1) 生徒観

<省略>

(2) 題材観

今回のこの課では、「私の宝物」というテーマで Show&Tell をする。1学年最後の「自分の大切なもの」のスピーチに、「大切な理由」を伝えることが加わっている。今回は ALT の宝物を聞いた生徒たちが、自分たちの宝物を ALT にしっかり伝えられるかがポイントとなる。

小学生で英語を聞くこと・話すことへの楽しさを知った上で、中学1年生では「自分のことを伝えよう」で3~5文のまとまった文章を自分で作成し、クラスの前で初めてのスピーチを体験した。1学年最後の「Show&Tell をしよう」では6~7文で「自分の大切なもの」について発音や発表の姿勢に留意しながらスピーチを行った。中学2年生では「将来の夢」で10文程度の自分の夢と志望理由を発表するのに加え、スピーチについての質疑応答を新たに加えた。即興性を求められる質疑応答では、英語で伝えることの難しさとともに、何とかして伝えたいという姿勢も感じられた。

これらの今まで学んだ発表の姿勢の他、この課では紹介するものを見せるタイミングや見せ方も工夫していきたい。前回の「将来の夢」同様、スピーチ後の質疑応答やコメント発表で、友達の宝物をしっかり聞いて質問したりコメントしたり出来る力を育てたい。小学校からずっと一緒にいる仲間についての新たな発見や、豊かな人間関係の構築につながれば良いと考える。

併せて、今回も「書くこと」の課題である「まとまりのある文章を書く」ということを意識させたい。過去形や未来表現などの既習の表現や文法を使って、まとまりや脈絡を意識し、自分の力で表現する達成感を持たせたい。3年生で集大成として行う「私の人生」のスピーチへの意欲や自信につながると考える。

(3) 小学校との接続

小学校では「Hi, friends! 1」「Hi, friends! 2」で、“Do you ~?” “What do you ~?” “I like ~.” など簡単な会話を通してたくさんの英語に触れてきた。そのため、英語を聞くこと・話すことに対しては抵抗なく取り組み、授業内の活動も楽しんでいる。

6年生の最後の授業では、桃太郎の英語劇をグループでアレンジして発表し、英語で表現する事の楽しさを学んだこともあり、入念に下準備をしたものを発表することは得意である。

小学校において音声で触れてきた言語材料を、文字で確認しながら復習し力をつけ、中学生レベルのスピーチを目指すことを意識させたい。

(4) 指導観

生徒が自信をもって英語を使ったコミュニケーションを行うためには、まずは確実な知識・技能の習得が不可欠であると考え。そのため毎時間の始めに、新出単語や基本文の学習を多くの口頭練習を伴いながら丁寧に導入し、單元ごとに単語テストや基本文テストを取り入れるなど基礎学力の定着を図っている。

コミュニケーションを支える土台となる4技能のバランスの取れた指導も大切である。生徒にとって比較的易しく負担の少ない聞く・読むといった **input** から入り、徐々に話す・書くといった **output** ができるようにしていく。**output** もまずは生徒が比較的得意である話す活動から入り、最終的には正しく書くことができるよう難易度を上げていく。即興で話することに苦手意識が感じられるため、授業内外で多くの自己表現の場を設定し、既習の表現をたくさん使う機会を与えたい。その際、正しく言ったり書いたりすることも大切であるが、生徒の「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を損なうことがないように、バランスに気をつけて指導をしていきたい。

3 研究主題とのかかわりとその能力育成を図るための方策

本校の研究主題は「共に学び合い、豊かな人間関係を築くことのできる生徒の育成」である。英語科の教科指導では『コミュニケーション能力の向上を目指す授業の創造』に重点を置き、豊かな人間関係の構築を目指して指導をしている。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成及びコミュニケーション能力の基礎を育成するために、上記のように確実な知識・技能の定着、4技能のバランスの取れた指導を心がけている。また、具体的な自己表現の場として、授業内での **activity** に加え、帯活動として行っている **Chitchat**、昼休みの **English Room** を活用した教師との **Talking Time** など設けている。授業内で扱う **activity** はなるべく日常生活に近づけた場面設定を心がけ、教室の外でもすぐ使うことができるような会話を目指している。日頃から多くのコミュニケーションの場を設けるため、授業では **Classroom English** の使用を促し、聞いたことに対し相槌をうつ、気持ちを込めて朗読する、など生徒の「気持ち」を大切にすることを心がけている。帯活動の **Chitchat** や **English Room** ではこれまで授業で習ってきたことを使って生徒が自由に自己表現することが可能になる。正しい文法に意識がいくあまり、会話そのものに苦手意識を感じたり流ちょうに話せなくなってしまうたりする生徒も多いため、練習の場では細かなミスに執着せず、温かく見守ることも大切であると考え。

また、豊かな人間関係の構築のために、ペアワーク・グループワークを多く取り入れるほか、話すペアが常に一定になってしまわないよう配慮したり、生徒同士が教え合ったり学び合ったりする場も多く設けていく。

4 単元目標

- ・自分の宝物について 10 文程度でまとまりのあるスピーチ原稿を書く。
- ・書いた原稿をもとに、紹介したいものを見せながらクラスの前でスピーチする。
- ・クラスメートの発表内容を正しく聞き取り、感想を述べたり質問をしたりする。

5 指導計画と評価計画

時	主な目標	主な学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の目標を確認する。 ・「私の宝物」という題で紹介したいものを決定する。 ・スピーチの構成を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT のスピーチを聞き、概要を理解する。 ・p.120 の Listening と Reading に取り組み、その内容と構成を知る。 ・“What do you treasure?” (編・著 伊勢華子)で、世界各国の子供の宝物を知る。 ・自分にとっての宝物は何かを考えて、メモを作成する。 	アー①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を参考にしながらスピーチ原稿を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生達の宝物に関する英文を読む。 ・自分の宝物のメモを元に、教科書の表現や先生達の例文を参考にして、自分の文章を英語で組み立てていく。 	アー③ イー③
3	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿を整理して、スピーチを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生達のスピーチを聞く。(ビデオにて) ・あいさつやお礼の言葉を加え、書いた文を整理して、原稿を完成させる。 ・発表のための音読練習を行う。 	アー③ イー②
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチを生徒同士で練習し、お互いにコメントすることで、スピーチを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT のスピーチを聞き (良・悪)、良いスピーチとは何かを考える。 ・スピーチの発表の方法、評価のポイントを評価表、ルーブリックで確認する。 ・ペアで注意点を意識しながらスピーチし合い、お互いに質問したり、意見を言ったりする。 	アー② イー①
5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員の前で、注意点を意識しながらスピーチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員の前で、スピーチをする。 ・スピーチ後、質疑応答を行う。 	イー① ウー①
6	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチを熱心に聞き、質疑応答をする ・本課の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表を作成する。 	
後 日	(ペーパーテスト)	<ul style="list-style-type: none"> ・「私の宝物」という題で Writing Test をする。 	エー① エー②

6 評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化について の知識・理解
① スピーチを熱心に聞き取ろうとしている。 ② 間違いを恐れず、積極的に発話したり相手に質問したりする。 ③ 辞書を活用するなどしながら、英文を書くことに興味をもって取り組んでいる。	① 強勢、イントネーション、発音などに留意し、ジェスチャーなど工夫して話すことができる。 ② 文字や符号、語と語の区切り、単語の綴り、時制などに注意して、正しく書くことができる。 ③ 発表に必要な分量で、まとまりや脈絡を意識して、書き表すことができる。	① クラスメートの発表の内容について、大切な部分を聞き取ることができる。	① 過去形や未来表現など、既習の表現や文法、語彙を身に付けている。 ② まとまりのある英文を書くための手順や考え方について理解している。

7 本時の学習計画（4/6）

(1) 目標

- ・スピーチを生徒同士で練習し、お互いにコメントすることで、スピーチを向上させる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】ア一② 【外国語表現の能力】イ一①

(2) 展開

過程	時間	学習内容	生徒の活動	○指導上の留意点 ■評価の観点
導入	10分	1 Greeting 2 Useful Phrases	・元気にあいさつする。 ・質疑応答、コメントに有用な文章を、ペアの問題形式で出し合う。 Goal: Try to make a good speech.	○英語の授業の雰囲気を作る。 ○お互いの顔を見て、感情を入れてやり取りするよう促す。
展開	15分	3 ALT's Speech	・ALTの悪いモデルスピーチを見て、どう直したら良くなるかグループで考える。→ALTに生徒がアドバイス→ALTによる良いモデルスピーチを見る。 ・スピーチの発表の方法、評価のポイントを皆で確認する。	○ALTによるモデルを見せ、自分たちで良いスピーチとは何かを考えさせる。 ○英語で自分の宝物を伝えたいと思わせる。 ○評価表・ループリックを渡し確認させる。

	15分 5分	4 ALT's Sister's Speech 5 Practice 6 Volunteers' Speeches	<ul style="list-style-type: none"> 内容、評価のポイントを踏まえて native speaker のスピーチを聞く。 ペアを変えながら、自分の宝物を発表し合う。片方のスピーチが終わったら、英語で質疑応答かコメントする。もらったコメントはメモを残し、改善につなげる。(90秒で交代) 1～2人によるスピーチ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】アー② ■【外国語表現の能力】イー① ○中間評価、相手からのコメントを意識することで、より良いスピーチになるように促す。 ○スピーチ中はしっかりとお互いを見る。メモはスピーチ後にとるよう、声かけをする。
まとめ	5分	7 Summary 8 Greeting	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Summary: What do you have to do to make a good speech?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価表を用いて本時のめあてについて省察する。 元気にあいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてに関して生徒の活動をふりかえりコメントをする。

8 備考

生徒数37名（男子18名 女子19名）